

第4回近畿病院図書室協議会・病院
図書室研究会共同事業運営会議 報告
(報告者 長谷川湧子)

日時：1998年11月28日午後1時～5時30分

会場：国立京都病院図書室

出席者：近畿病院図書室協議会

小田中徹也 首藤佳子 大橋真紀子
(共同事業運営会議メンバー)

病院図書室研究会

長谷川湧子 奥出麻里 河合富士美
田引淳子 (共同事業運営会議メンバ
ー)

浜口恵子 林伴子 須井麻由美 前
田元也(事業協力者・オブザーバー)

項目と決定・報告事項：

テーマ1 インターネット・プロジェクトメン
バー：小田中徹也 大橋真紀子 須井麻由
美 奥出麻里 長谷川湧子 下原康子 上
田奈緒美

(1) 1998年5月9日、第3回共同事業運営会議
において folio「フォリオ」が了承され公開
された。URLは“http://www.hosplib.org/
folio/”

(2) 1998年9月、AVCC高度映像情報センター
より、98年9月の good siteに認定された。
フォリオトップページの good siteマーク
からリンクをしている。

(3) 1998年10月23日東京レストラン La Maremmaに
おいて第2回フォリオ編集会議が開催され
た。

1. サイト紹介の範囲と選定の指針・基準、
一般向け医学・医療情報の扱いについて
協議した。「サイト紹介の範囲と選定の
指針」はフォリオの「このプロジェクト
のこと」において追加記載し、公開する
ことにした。厳密な選定の基準とはせず、

「指針」として若干の含みをもたせる
こととした。

2. 「患者サービスの展開」ページについて
は、選定は水先案内的なリンク集のみに
限ることとした。

3. 「図書館サービスへの支援」のサブメ
ニューとして、医学・医療情報を拡張して
紹介することとし、新たに「保健医療関
連サイト」メニューを追加し、保健医療
分野の情報入手に役立つサイトを案内す
ることとした。

4. 複数のチームメンバーの合意に基づき、
特におすすめのサイトには、☆または◎
印などのマークを付ける評価を行うこと
にした。

- (4) ウェブスターにより掲示板「folio talk」が
試作され、1998年11月3日～20日まで、チ
ームメンバーで試用した結果、これをフォ
リオトップページに設置することにし「foliotalk：
図書館員の掲示板」として11月25日に公開
した。これに伴い「メッセージはこちらへ」
は、意図を明確にするため「フォリオへの
メッセージ」と改題した。また、チーム専
用の掲示板「フォリオ仮想編集室」を USER ID
とPASSWORD付きで、11月18日から試用して
いる。なお、病院図書館員認定資格制度検
討班も、打ち合わせや討議で有用であれば、
この掲示板を使用できることにした。

- (5) チームメンバー、および両会関係者によ
り、フォリオの報告および広報活動が活発
に行われている。またNedStat Statistics
によるフォリオへのアクセス数は右上がり
に伸び、11月に入り特に増加した。

- (6) 会議参加者にフォリオの新ページ、追加
機能の掲示板が披露され、これらのパー
ジョンアップは好意的に了承された。

資料「サイト紹介の範囲と選定の指針」

○サイト紹介の範囲
医学とその関連分野、および図書館情報関
係のサイトを評価・収集する。

○サイト選定の指針
次の7項目を選定に際して考慮し、評価・

紹介する。

1. Authorship

情報発信者である著者、製作者、あるいは製作機関が明確である。コンタクトできるウェブマスターのe-mailアドレスが記述されている。

2. Reliability

正確性、信頼性がある。合法的である。

3. Purpose

情報の目的が明確であり、偏向がない。読者対象を想定できる。

4. Practical Use

実用性がある。図書館サービスに直結している。

5. Link

必要なあるいは有用な関連サイトにリンクしている。

6. Currency

情報の新鮮さを追求している。内容の更新をしている。作成日または更新日の記述がある。

7. User Interface

ユーザーインターフェースがよい。デザインも含め、構成がわかりやすい。

以下が討議され、継続して検討を行う。

1) 移行措置：無資格者の受講条件。

2) 認定方法：原則として通信教育（実習・スクーリングを含む）とする。

(3) 第3案の教育カリキュラム案（担当：田引）が提示され、討議された。更に単位数、時間数も考慮し、検討班で継続して検討を行う。

大項目は以下の4項目とする。

1) 病院図書館情報学

2) コンピュータ・リテラシー

3) 健康科学（医学・医療）

4) 研究

各項目の内容についても、討議を行った。

(4) 実施母体については両会を母体とする第三者機構を設置する。

(5) 実施にあたってどの位の費用が必要になるか、来年春の両会の総会を控え、予算化の都合もあり、おおまかなコスト試算を2カ月以内に行なう（担当：林）。

(6) 事務局の設置、経済計画の作成、テキストについては継続して検討する。

テーマその他

(1) VML参加機関数は1998年11月に5機関の新規登録の申込があり、合計機関数が41機関となった。

(2) 今年度、共同事業運営会議の世話役を長谷川湧子が担当したが、来年度は小田中徹也に交替し、担当することになった。

次回運営会議：1999年5月、東京にて開催予定。（敬称略）

テーマ2 病院図書館員認定資格制度検討班
メンバー：首藤佳子 浜口恵子 林 伴子
河合富士美 田引淳子

(1) 新たにメンバーとして浜口恵子、林 伴子の2名が参加することとなった。1998年9月10日、国立京都病院においてミーティングを行い、経過報告とカリキュラム項目を検討した。

(2) 1998年10月24日聖路加国際病院において検討班会議を開催した。

1. 教育カリキュラム案（担当：田引）の病院図書館学、健康科学（医学・医療）の項目について検討した。

2. 医療関連・図書館関連認定資格制度の現状について調査結果が報告された（担当：河合）。

当会議報告は、近畿病院図書室協議会と病院図書室研究会との共同事業運営会議の今年度の世話役、長谷川湧子氏が当日の会議での各事業報告と協議事項をまとめ、両会で確認した報告書です。

会員の皆さまにこれを紹介し、第4回共同事業運営会議報告書とさせていただきます。

（事務局長 小田中徹也）
